



競争時代の新しい人材開発を提案

インヴェニオチャイナ 総経理 CEO

大城昭仁さん

「競争激化の時代を勝ち抜くための人材育成が求められています」——インヴェニオチャイナ (TEL= 021-6062-7290、URL=www.invenio.cn) 総経理CEOの大城昭仁さんは、日本企業が中国市場での競争を勝ち抜くために、人材育成を根本から変える必要があると力説する。高度成長期から安定成長期に移行しつつある現在の中国の経済環境に対応した、新たな研修プログラムの開発に取り組んでいる。

大学卒業後、野村證券、ベンチャーキャピタルに勤務し、20代は金融や投資の仕事に打ち込んだ大城さん。金融市場が冷え込んだ当時、厳しい仕事環境の中でも、顧客のためになんとしても結果を出す“プロフェッショナル”の姿勢を鍛えられたという。一方で、企業の上場やM&Aを支援するプロジェクトを通じて、会計数字には表れない人材や組織の力こそが企業の競争力の源泉だと強く実

感し、キャリアチェンジを決意。人材育成研修を手掛けるインヴェニオに転職した。

入社後は、グループ会社の経営者育成、M&A後の組織統合、新規事業の創造など、顧客企業の戦略課題を解決する研修に取り組んだ。「人材、組織の専門家であるだけでなく、課題解決のプロとして、顧客企業のビジョン実現にコミットしてきました」(大城さん)。07年ごろからは、グローバルリーダー育成プログラムを多く手がけ、次第に中国で現地幹部の育成をしてほしいという要望を受けるようになった。これに応えるべく、自ら上海法人を立ち上げ、総経理CEOとして赴任した。

「高度成長期に求められるのは『世間並み』のちゃんとした会社になることです。それさえできれば、市場成長に乗って成長できます。しかし、市場パイが限られてくる安定成長期のこれからは、『勝つための』会社作りが必要になります。現地主導による差異化戦略と、競争に対応した組織体制ができていないと生き残れません」(大城さん)。

自ら考え、主導的に動く人材が要となり、企業競争力を創り出すと大城さんは指摘。定番の“問題解決力”“部下育成力”といったものに加えて、“戦略構想力”“組織開発型リーダーシップ”“本社主導力”といった独自プログラムを開発し、住友商事、伊藤忠商事、旭硝子などの大手企業で採用が進んでいるという。

「実は、規模の小さい現地法人だからこそできる大胆な変革を成功させ、閉塞感漂う日本本社を刺激して、変わるきっかけを与えたいと思っています。そうすれば、現地法人ももっとやりやすくなりますし」(大城さん)。中国の企業経営に新風を吹き込む38歳の経営者の目は、もうその先を見ている。